

みなさんの願い 市政に届けます！

「わたしたちのまち、網走市民アンケート」その2



NO. 927

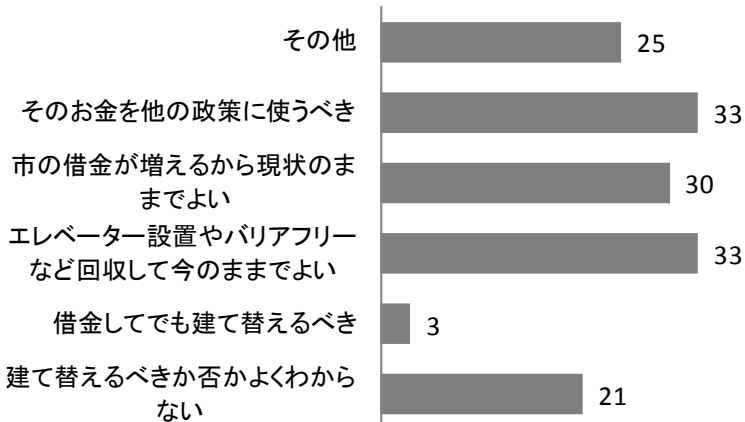
2013・7・14

発行所

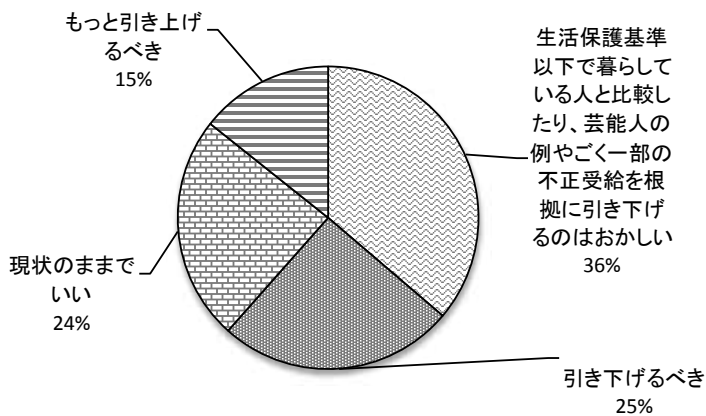
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三・四四五八
F 四三・四四五七



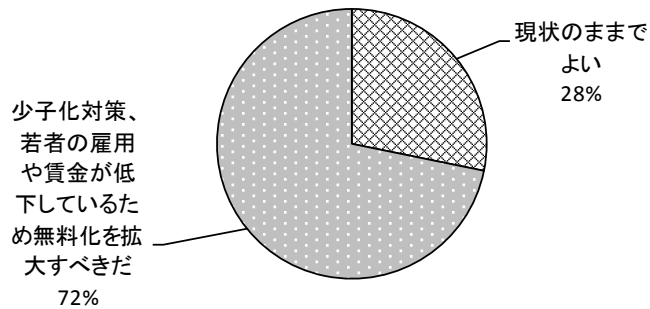
2.流水館の建て替えについて



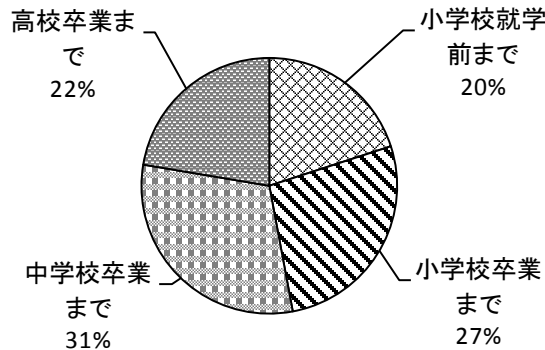
(1)生活保護費の引き下げについて



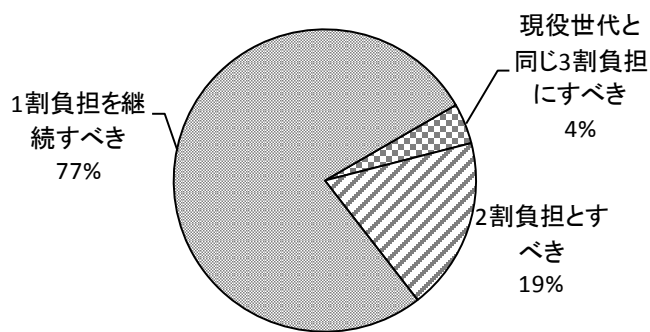
(2)乳幼児医療費(子ども医療費)の無料化拡大について



(3)医療費無料化拡大の場合



(4)70歳以上窓口負担について



※流水館については積極的に建替えるべきと考えている市民は極めて少数です。

日本共産党市議団も建替えに反対の立場で市議会で主張しています。

※芸能人の親が保護を受けていることで、生活保護バッシングが政府与党や一部野党のリードで進みました。

しかし、保護基準の引き下げは、児童・生徒の学費や給食などの援助を減らすなど社会保障の低下につながります。「引き下げるべき」が少数なのは、市民の暮らしがそれだけ大変になっていることのあらわれでもあります。

市議団は「市民の暮らしの防波堤」となって暮らしを守ります。

※子どもの医療費無料化の願いは、特に若い親の世代にとって切実です。

低賃金・長時間労働が日本全体に進行している状況です。給料

日前に熱を出さないでと願う若い母親の思いを行政は受け止めるべきです。

就学前まで医療費を無料にするには1千700万円あればすむのです。

※70才になって「医療費が安くなって助かった」「えっ、これからまた負担が増えるの?」老人医療費無料の時代もあったのです。戦中、戦後を生き抜いた高齢者の老後をしっかりと考えるのは政治の役割です。

流水

大門実紀史

「国会かけある記」

二〇一三年七月八日

かぶとの緒

参議院選挙のはじめの四日間、札幌、函館、渡島松山、空知をまわりました。

どこに行っても後援会員、党員の皆さんの顔がとても明るい。「頑張れば前進できる」―都議選での躍進が元気の源になっているようです。

私の場合、都議選直後、嬉しくてたまらず、「次は吉良よし子、イケイケどんどん」と騒いでいたら、全都後援会の役員から「勝つて兜(かぶと)の緒を締めよ、だよ」とたしなめられました。「躍進」の言葉を聞くのは久しぶり。少しくらい小躍りしてもいいんじゃないの、と思いました。

その数日後、志位さんも引用されたこの格言のルーツは、戦国時代の名将、北条氏康の父(氏綱)が臨終のときに、息子・氏康の油断をいましめるために遺した言葉だといわれています。この言葉を胸に氏康は連戦連勝をつづけました。また現代にこの格言を広めたのは、日露海戦でロシア艦隊を破った東郷平八郎が詠んだ連合艦隊解散の辞でした(起草は海軍参謀・秋山真之)。

「神明はただ平素の鍛錬に力(つと)め、戦はずしてすでに勝てる者に勝利の栄冠を授けると同時に、一勝に満足して治平に安ずる者よりただちにこれをうばふ。古人曰(いわ)く、勝つて兜の緒を締めよ」やるべきことをやらずに勝利はない。同時に、人は暗い人より明るい人に付いてきます。残された時間わずかですが、最後まで明るく元気に頑張ります。暑さがきびしくなってきました。お身体、ご自愛ください。